



みんなが共同で生活する学校をどう過ごしやすいものにしていくか考えるのはすごく難しかったです

～ポロシャツ導入の校則改正に尽力した元生徒会本部役員に聞く～



内田 和歌菜さんプロフィール

(旧姓：杉田)

金井高等学校 第26期卒業生

3年3組 (矢野慎一先生級)

山岳部・生徒会本部役員

【写真左】昇降口、懐かしいですね！あの向こう側（中庭）で泊まったり、カレーを作って食べたりしたのを思い出します！

同窓会では、金井高校 50 周年にあたり、学校の発展に寄与していただいた方に、今までの思い出を振り返ったり、金井高校への想いを語っていただいたりしています。

今回は、かつてワイシャツだけだった夏服にポロシャツを導入した世代である 26 期生で、生徒会役員として活動していた内田（旧姓：杉田）和歌菜さんに、1 年年上で一緒に生徒会活動をしてきた同窓会副会長・小島将太（25 期）がお話を伺ってきました。（2025 年 8 月 8 日横浜市内にて）

小島：僕は知らなかったんだけど、制服にポロシャツを導入したことが金井高校にとっての大きな出来事として挙がっています。詳細を聞かせてもらえますか？

内田：私もそこまで話題になるとは思っていませんでした。自分たちのちょっとした意見が形になって、それが他の人にとって良い思い出として残ってもらえていたことは嬉しいですね。

小島：確かに夏服は半袖のワイシャツしか選択肢はなくて、当時は教室にエアコンもないし（現在は全教室にエアコン完備）、下敷きとかであおいでもすぐ汗だくになっちゃって、背中が張り付くし、古びた椅子の色がワイシャツに移って散々だったね。

内田：先輩たちもやっぱりそう思っていたんですね。私たちも仕方ないことだと思い込んでいたんです。校則は入学した頃からあるけど容易に変えられるものではないと思っていたので、まさか自分たちにそれを変える力があるとは思っていませんでした。

小島：それで、具体的にはどんな流れだったの？

内田：きっかけは、生徒会に寄せられた声でした。ポロシャツの方が動きやすいし通気性も高いので、ポロシャツも制服の一部として認めて欲しいという意見が続々と挙がりました。

そこでまずはアンケートをとり、ポロシャツ導入実現をどれだけの人が望んでいるか確認すると、474 人中 332 人の回答があり、そのうち 310 人が賛成でした。「ワイシャツだと汗をかいた時に気持ち

悪い」「どちらでも好きに選べるといい」などのコメントもあり、合計6回のアンケートをとりながら、生徒側と先生側の間を取り持つ形で話し合いを進めていきました。最終的に、『白色無地のポロシャツ』で合意することになりました。

小島：地道な話し合いは相当大変だったんじゃない？

内田：そうですね。最初は生徒会活動に興味のなさそうな人もいたし、アンケートにも協力してもらえるのか半信半疑でした。でも、3年間とはいえみんなが共同で生活する学校をどう過ごしやすいものにしていくか考えるのはすごく難しかったですが、投げ出さずにねばり強く続けていけたことが良かったと思います。

小島：努力の賜物だね！その後、生徒への発表というか、お披露目会的なものはあったの？

内田：生徒総会において、生徒会役員がポロシャツ着用で登場してファッションショー的な感じで発表しました。そこでポロシャツの感想を言ってもらい、生の声を全校生徒に聞いてもらうことで、大人から強制されたものではなく、自分たちの内から湧き出てきた声や感情であることを実感してもらうことができました。

また、当時校長だった濱野厚先生からは「ポロシャツの実現という経験は、教員が生徒を信頼し、生徒もそれに応えていくという良い形がとれたのではないかと思います。何もしないことで周りから注意を受けるのではなく、自分たちで自分たちの学校のことに興味を持ち、自ら取り組む感性をこれからも育てていって欲しい」とのお言葉をいただきました。

小島：自分たちが大人になって改めて感じるけど、若い頃は敷かれたレールの上を通ることが良いことだと思ってしまう節があるよね。校則は絶対だ、従うのが当たり前。そんなルールも、力を合わせれば変えられる。それを実感したとても貴重な経験だったんだね。

内田：本当に、仲間に恵まれたな、という感じです。同期と一緒に生徒会役員だったメンバーとは部活動でも一緒だったので、苦楽を共にした分、以心伝心っていうのがピッタリな関係性だったと思います。

小島：そういえば内田さんは部活動では何をしていたの？

内田：山岳部です。長期の休みになると関東近郊の山に登ってキャンプをしたりしました。

一番の思い出は槍ヶ岳に登るときで、事前に練習として校内でテント設営や食事の調理などをするんですが、その一環で中庭にテントをたてて宿泊したことがあります。テントをたてて、カレーも作りました。当然校内では他の部活動の人もいるわけですが、やっぱりカレーの匂いに魅かれて見に来るんですよね。傍から見れば、特にスポーツ系の部活動の生徒からは中庭で遊んでいるって思われて、注目の的でした。



小島：カレーの匂いは気になるよね。誰かが食べているとつい自分も食べたくなる。しかもそれを学校の中という非日常の空間でやっているという…特別感のある体験だね。

内田：そう思いますよね。あの頃が懐かしいです。

そんな中庭が今、ちょっと残念な状況になっているということをお伺いしましたが…？

小島：そう、ちょっと荒れてしまっているので、中庭再生のためのクラウドファンディングが始まったんだ。

内田：部活動もそうですが、卒業アルバムの学年写真とかは中庭で撮影した記憶があるので、あの風景がなくなってしまうと寂しいですね。少しでもきれいな中庭に近付けることを願います！